

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名（カタカナ）を確認し、氏名欄に氏名（漢字）を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例（選択式の場合）〕

例一：〔語群〕が二桁で 11 大阪 12 佐賀  
13 長崎 14 東京 とある場合

問 X		
16	17	A
/	2	
18	19	B
/	4	
20	21	C
/	/	

Aの解答が佐賀の場合  
 Bの解答が東京の場合  
 Cの解答が大阪の場合

例二：〔語群〕が一桁で 1 大学 2 中学校  
3 高校 4 小学校 とある場合

問 X		
51		a
/		
52		b
4		
53		c
2		

aの解答が大学の場合  
 bの解答が小学校の場合  
 cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

日本での漢字の読み方には、音読みと訓読みの二種類がある。『論語』の例で言えば、「学」(ガク)、「時」(ジ)、「朋」(ホウ)は音読みで、これは古代中国の漢字音が日本語風になまったものである。現代中国語では、学(xue)、時(shi)、朋(peng)となり、日本の音読みと似ているものも似ていないものもあるが、これは日本では発音が日本語風になまり、また中国でも長い間に発音が変化したためで、もとをたどれば **A**。

なお音読みには右の「学」、「時」のようにひとつしか読み方がないものもあるが、多くの漢字には二通りの音がある。たとえば「人」は「人間」の場合は「ニン」、「人口」の場合は「ジン」と読み、また「間」には「カン」(間接)、「口」には「ク」(口調)の音もある。これらは同じ意味でありながら場合によって二つの音を使い分けている。

このうち「人」(ニン)、「間」(ケン)、「口」(ク)のような読み方を呉音、「人」(ジン)、「間」(カン)、「口」(コウ)のような読み方を漢音というが、この呉音と漢音のちがいは、もともとなった中国語の時代的、地域的相違である。日本がはじめて漢字を受け入れた四―六世紀の中国は南北に分裂していたため、日本には地理的に近い南朝の呉地方(今の江蘇省一带)の発音が朝鮮半島ケイユ<sup>イ</sup>でまず入ってきた。これが呉音で、当時伝来した仏教関係の語彙は今でも多く呉音で読む。しかし七世紀に入って唐が統一帝国を形成すると、文化の中心は唐の首都である長安(今の西安)に移った。そこで遣唐使などを通じて改めて長安の発音を学びなおした。それが、すなわち漢音である。

これはいってみれば、コップとカップは本来同じ言葉だが、江戸時代にまずオランダ語の *kop* がコップとなり、ついで明治以降、英語の *cup* がカップとなった、つまり学ぶべき対象の時代、地域の相違によってコップとカップが日本語に入り、使い分けが生じたのに似ている。中国語の南北の方言の差は、本来同系統のオランダ語と英語のちがいにも匹敵するものであり、<sup>a</sup>そこから呉音と漢音が生じたわけである。

このように音読みが、呉音、漢音のいずれであれ、その起源が中国語の発音にあるのに対して、訓読みは、人(ひと)、間(あいだ)、口(くち)のように、その漢字の日本語の意味で漢字を読むことを指す。つまり訓読みは本来、翻訳である。中国語以外の、たとえば英語の場合、bookのブックという音を無視して、ただちに「本」と読むことはありえない。なぜ漢字の場合に

だけ訓読みが生じたのであろうか。

それはまず漢字が表意文字で発音と直結していないからであろう。むしろ漢字にも「同・洞・胴・銅」などがみな「同」を音符としているように、表音的要素がまったくないわけではない。しかし、「格（カク）・洛（ラク）」のように同じ音符を持つ字でも発音が異なる場合もあり、漢字の音をおぼえるのは面倒である。それなら、どうせ中国語を話す必要はなく意味だけわかればよいのであるから、**B** 日本語の意味で漢字を読んでしまおうということになる。

しかしむしろそれだけの単純な理由で、漢字を日本語で読むという発想の大転換が起こったわけではない。そのことを考えるひとつの手がかりは、「訓」という言葉にある。漢字を日本語で読むことを、なぜ「訓」というのであろうか。

「訓」とは、解説して教えるという意味で、特に儒教の経典を教えるための注釈を指す。二字の言葉では「訓詁」とも言うが、「訓」は難しい言葉をわかりやすく説明すること、「詁」は古い時代の言葉を今の言葉で解釈することである。このような訓詁を主とする経典解釈は、儒教が国教となった漢代に盛んとなって訓詁学と呼ばれ、その後の経典学の基本となった。

たとえば『論語』の一節の漢代の注釈では、「朋」に「同門曰朋」（同門を朋という）とある。これは「朋」というバクセンとした言葉をより具体的に、師を同じくする同門の弟子であるとわかりやすく解説したもので、いわば「訓詁」の「訓」に当たるのであろう。

古代日本人が漢字の日本語の読みを「訓」とよんだのは、つまり中国のこの訓詁の方法をシャクヨウしたわけで、**C** のは一種の注釈であると考えていたからであろう。訓詁がわかりやすい今の言葉による注釈なら、日本人にとってそれは日本語で注釈することにほかならない。

それを「訓」とよんだことは、やはり両者を同じ概念でとらえていたことを示している。国家という概念がまだはつきりせず、言語構造の知識も未熟であった時代、日本語と中国語が系統の異なる外国語であるという明確な認識はなかったであろう。しかも広い中国では、各地の方言ごとに漢字の発音はまちまちである。古代の日本人や朝鮮半島の人々が、自国語を中国語の方言と同じレベルで考えていたとしても無理はない。

問一 空白部 A にはどのような言葉が入るか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 日本の音読みと現代中国語はところどころ似ている
- 2 始まりは日本の音読みである
- 3 中国語の発音の変化が日本の音読みがなまる原因となっている
- 4 相互に影響を与え合ってきた
- 5 どちらも古い中国語の発音に行き着く

問二 傍線部 a 「そこから呉音と漢音が生じた」原因として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 オランダ語と英語の関係のように、古代中国語と日本語は関係が深いから。
- 2 中国の二つの地域・時代の方言をそれぞれ別の音読みとして受け入れたから。
- 3 中国語は長い間に発音が変化し、古代中国語と現代中国語とは大きく発音が異なっているから。
- 4 古く伝来した仏教関係の語彙と、文化の中心の長安の言葉とでは重要度が違っていたから。
- 5 呉音は日本の音読みに、漢音は日本の訓読みに対応していったから。

問三 空白部 B にはどのような言葉が入るか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 そもそも
- 2 なおさら
- 3 いっそ
- 4 せめて
- 5 せっかく

問四 空白部Cにはどのような言葉が入るか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 古代中国の漢字音が日本語風になまった
- 2 今でも仏教関係の語彙を呉音で読む
- 3 漢字を日本語で読む
- 4 儒教の経典を教える
- 5 古い時代の言葉を決の言葉で解釈する

問五 傍線部b「両者」とは何と何を指すか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 音読みと訓読み
- 2 呉音と漢音
- 3 仏教と儒教
- 4 表意文字と表音文字
- 5 訓読と訓読み

問六 本文の内容に合致しているものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 日本語における漢字には音読みと訓読みがあり、さらに音読みには呉音と漢音があるため、習得は困難である。
- 2 日本語で漢字が複数の音読みを持つようになるには発想の大転換が必要であった。
- 3 訓読みが生じた理由の一つとして、呉音と漢音の両方を音読みとして採用したことが挙げられる。
- 4 日本で訓読みが生じた理由の一つは、表音文字と違って漢字が発音に縛られていないことにある。
- 5 漢字は表意文字であるため、日本では元の中国語の発音がないがしろにされた。

問七 傍線部イ、ハの「ユ」「ユ」「バク」「シヤク」と同じ漢字を用いているものを、次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

イ

- 1 その石碑のユライを調べた。
- 2 物見ユサンでこんなところまで来たわけではない。
- 3 彼の態度は私をフユカイにさせた。
- 4 特別な治療のおかげでカイユできた。
- 5 ここでキュウユしておかないとこの先ガソリンスタンドはない。

ロ

- 1 言い訳に言い訳を重ねて自縄ジバクに陥った。
- 2 バクフは、全国の四分の一を天領として支配した。
- 3 彼女の加入はこのチームのキバク剤になってくれるだろう。
- 4 あの人はサバクに咲く一輪の花のように私を慰める。
- 5 バクガはウイスキーやビールの原料になる。

ハ

- 1 プロタゴラスは、「人間は万物のシヤクドである」と言った。
- 2 散歩中、知り合いに会って軽くエシヤクをした。
- 3 彼の肌は日に焼けてシヤクドウ色だった。
- 4 強力なジシヤクは子供が飲み込むと危険だ。
- 5 引越しをするのでシヤクヤを探している。

〔二〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

長女は、近江蒲生郡古市子村、福永某が後妻なり。先腹の子二人あり。長女が産めるは十余人あり。さるに先腹の子をいつくしむこと、わが産めるに十倍す。見る人感ぜざるはなし。しかもなほわが子あまたあれば、先腹の子のおろそかならむことをおそれ、男子は七、八歳におよべば、父を勧めて出家せしむ。女子はことごとく京へのぼせ人のつかはれものとなす。かかれば先腹の子どももその慈愛にひかれて至孝なり。兄は家をつぎ、妹はかの実子の京にいでし義理をおもひ、「われも京へいでむ」といふをゆるさず、しひて隣村へ嫁せしむ。さればふかくその恩を感じ、継母の生涯、起居をとふことおこたるときなし。長女、髪をおろしけるが、かの出家の子ども、それぞれの寺の住職となりしもの、折々に呼びむかふれども、「実子の愛にひかれて、先腹の子のかたに居らずといはれむはうるさし」とて、あへてかへりみず。その賢なる名、遠近に聞こえて人尊みけるが、安永六戊戌の年、老せまりて身まかりぬとぞ。

——「続近世畸人伝」——

\*先腹の子……………先妻が生んだ子ども

問一 この作品は、江戸時代に出版されたものである。同時代に成立した作品を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 風姿花伝      2 宇治拾遺物語      3 落窪物語      4 大鏡      5 雨月物語

問二 傍線部 a「感ぜざるはなし」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 実子と継子の深い関係が感じられないこともない  
2 先妻の人柄が心に染みないことはない  
3 後妻のことをほめない人はいない  
4 京に行った子どもたちの健気さに深く感動しないわけにはいかない  
5 父の優しさに気づかない人はいない

問三 傍線部 b 「あれば」 c 「おろそかならむ」 e 「とふ」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |         |      |        |      |      |               |             |             |             |          |
|---------|------|--------|------|------|---------------|-------------|-------------|-------------|----------|
| b       |      |        |      |      | c             |             |             |             |          |
| 1       | 2    | 3      | 4    | 5    | 1             | 2           | 3           | 4           | 5        |
| 過ごしていても | あったら | いたとしたら | いるので | 生じると | なおざりにしてしまいそうな | 疎遠になるかもしれない | 馬から下ろそうかと思う | 愚かなことをしてしまう | 未熟なままである |

- |    |    |      |      |      |
|----|----|------|------|------|
| e  |    |      |      |      |
| 1  | 2  | 3    | 4    | 5    |
| 探す | 弔う | 往来する | たずねる | 共にする |

問四 傍線部 d 「隣村へ嫁せしむ」のようにしたのはどうしてか。説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 実家に長くいられると気詰まりだから。
- 2 遠くに奉公に出して苦労させたくないから。
- 3 先腹の子の思う通りにはさせたくないから。
- 4 ゆくゆくは自分といっしょに出家するように仕向けたいから。
- 5 実子を自分の近くにおいてかわいがろうと思っているから。

問五 傍線部 f 「むかふれども」の文法的説明として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 四段活用の動詞「むかふ」の已然形＋接続助詞「ども」
- 2 下二段活用の動詞「むかふ」の已然形＋接続助詞「ども」
- 3 四段活用の動詞「むく」の未然形＋四段活用の動詞「あふ」の已然形＋接続助詞「ども」
- 4 四段活用の動詞「むかふ」の終止形＋完了の助動詞「り」の已然形＋接続助詞「ども」
- 5 下二段活用の動詞「むかふ」の連体形＋受け身の助動詞「る」の已然形＋接続助詞「ども」

問六 傍線部 g 「その賢なる名、遠近に聞こえて人尊みける」と評価されるようになったのはどのようなことを行ってきたからか。次の選択肢の中からあてはまらないものを一つ選び、その番号を記せ。

- 1 男の実子を出家させたこと
- 2 女の実子を京都に奉公に出したこと
- 3 継子を実家に住ませ、手伝いをさせていること
- 4 男の継子に実家をつがせたこと
- 5 出家した実子が住職になって呼び寄せようとしても行かなかったこと

